



赤平市長 菊島 美孝

結果を報告します 秋季 住民懇談会

平成27年度秋季住民懇談会が10月15日(木)から29日(木)まで市内全9会場で開催されました。今回の住民懇談会は、「赤平市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検討状況」、「平成28年度予算に反映する地域要望」を中心に市民の皆さんから様々な要望やご意見を聞かせていただきました。

地方創生・人口減少

Q まち・ひと・しごと創生総合戦略会議のメンバーの構成員はどのような人たちか。

A 戦略会議は産官学金労(産業界、官公庁、大学等、金融機関、労働団体)から市内16名、市外の有識者3名の合計19名で構成されています。

Q 将来の赤平市について検討するために、もう少し若い人を委員に入れてはどうか。

A 赤平市では他市町村に無い50歳以下のメンバーで構成される「みらい部会」を設けております。若い人の意見を取り入れるため、中学生を対象としたアンケートも実施しました。

Q 地方創生で2050年の国の人口は1億人。赤平市の人口目標はどの程度なのか。

A 最終とりまとめ作業が10月末であり、この内容の政策を5年間で実行することにより人口減少率をいかに緩和をして将来人口をどのくらい推定できるか検討し、人口ビジョンが決定し次第、また皆さんへ周知していきます。

Q 人口減少対策として、企業誘致を行っているのか。また、企業とも協力して、市外から赤平

市へ働きに来てくれる人が住んでもらえるようにしたらどうか。

A 今の赤平は、雇用の場(仕事)がありながら人材確保が難しい状況です。企業の方にも新採用時には、ぜひ赤平市内に住んでもらえるようお願いしています。民間賃貸住宅家賃助成の対象者によって転入された方も20名以上います。



Q 赤平市から他市へ就職する人と、他市から赤平市へ来る人の比率はどうか。

A 国勢調査の結果によるため割合は不明ですが、現在赤平市は夜間人口より昼間人口の方が多い状況です。また、約200人の方が他市から赤平市へ通勤しています。企業誘致をしても働き手が不足しており、ハローワークに求人申込みをしても人が来ない状況であります。外国人を雇用している企業もあり、そ

のため、赤平市から企業が撤退してしまわないか危惧しております。

マイナンバー

Q マイナンバー制度が始まるが、市としてのセキュリティ対策はどのようになっているのか。

A 市役所内のパソコンを、個人情報情報を扱うパソコンとメールやインターネットを見ることができるパソコンとに完全に分離し、外部から個人情報情報を扱うパソコンに侵入できないようにしました。セキュリティ対策は専門業者に依頼しています。

Q マイナンバーの番号は変更できるのか。また、カードの更新は車の番号と違って選ぶことはできません。また基本的に、番号については、変更はできません。カードは10年間有効で、未成

年は5年更新となります。

車庫・物置の税金

Q 10月の広報あかびらに車庫・物置が課税されるとあったが、どういった内容なのか。今まではどうだったのか。

A 車庫・物置も要件を満たせば本来は課税対象になります。市で一度実態調査をし、正確な状況を把握して平成30年から正

Q 車庫はどのくらいの大きさのものから課税されるのか。

A 10㎡以上の面積を有していれば課税対象となる見込みです。古い車庫については新しい車庫と比べて、軽減されることもあります。

教育

Q 小学校の統合後、これまで地域とかかわりが深かった小学校も地域とのかかわりが薄くなってきている。学校の行事や会合にも呼ばれなくなった。統合は止むを得ないが、もう少し地域との関係性を築くことができないだろうか。



A 小学校の統合により、校区が一気に広がり、これまでの地域との係わりが薄れて来ているのは理解します。地域との係わりは非常に重要なことであり、

これまでどおりとはいかないかもしれませんが、貴重な意見として賜ります。

Q 学力テストの結果を赤平市としては公表しないと方針だったが方針転換したのか。

A 各学校長の判断により公表はできることとしています。赤平市の全体の学力は数値的なものを示すのではなく、全国との比較という形でお知らせしたいと考えています。赤平市でも学力向上プランを策定して取り組んでおり、徐々に成果が出ています。

交通

Q JR赤平駅無人化に対する市の対応は。

A 6月にJRから無人化の申し入れがありました。沿線自治体で構成する、根室本線対策協議会で有人継続についてJR北海道に対して申し入れを行いました。

Q JR赤平駅が無人化されると聞いたが切符販売はどうなるのか。

A 多少市の負担も発生しますが、赤平駅の有人継続をできないかJRと協議中であり、根室本線が廃止にならないのか。市民もJRの利用が

必要だと思うが。

A 廃止は絶対にありません。行政として限界はありますが、今後は市民の皆さんにも地元で切符を購入していただくとか協力を呼びかけしていかなければなりません。

農業

Q TPPの関係も有るが、農地の基盤整備事業を市で行なってももらわないと農家は廃れる。赤平の農業政策は10〜20年遅れている。他市では秋になると暗渠整備事業を行っており、輪作体制を確立できるよう国の補助も取入れ事業展開して欲しい。

A 基盤整備事業は3年前に行いました。その後は、市としても技術職員を雇用したいが、なかなか応募などが無く体制整備ができいていないため、農地の基盤整備事業が実施できない状況であります。

Q 赤平は水がきれいなことから、取れるお米も美味しい。赤平産米を全国的にもっとPRして欲しい。

A 赤平市特産品推進協議会が中心となり赤平産の特別栽培米をPRしており、10月には静岡県で実施してきました。JAを通して首都圏にも販売してお

り、赤平特産品小包セットでも、ほかの地元産と組合せて赤平産米を販売しています。また、ふるさと納税の返礼品としても取扱っており人気があります。



その他

Q 市外転出者へ、ふるさと納税のPRをしたらどうか。

A ふるさと納税は今年から地元特産品を活用し返礼品制度を始めPRに努めています。その結果、例年500万円程の寄附金額が今年は既に6,000万円を超えています。寄附金について、総合戦略や少子化対策などに来年度から有効活用していきます。

Q インフルエンザの薬品が値上がりしているようだが、市では負担できないのか。

A インフルエンザの予防接種は市内の医療機関3カ所です

受けることができます。今年度から予防接種料金も1,000円上がることから、65歳以上の方と中学生以下の方について市でも上がった半分の500円を負担することにしました。

Q 茂尻生活館は避難場所として指定されていないのか。

A 建物の安全性を含めて、一時避難場所としての施設がふさわしいか今後、検討していきます。

Q 市長の公約で保育料を全額免除としていたがいつ実施するのか。

A まずは今年度、保育料を国の基準額から50%減免しました。保育料の無料化は幼保一元化が進んだ後、検討していきます。

Q 以前にハザードマップがあったが、更新を考えているのか。

A 学校の統廃合などが有り避難場所が変わっている所があります。作成次第改訂版を皆さんへ配布したいと考えています。

Q 以前住民懇談会の中で共同墓地についてお話があったが小樽、江別、三笠にはある。赤平市ではどのように考えているのか。

A 身寄りのない方の共同墓地は検討していますが、すでに墓のある方については検討はしていません。お墓を守って

いける人がいない場合でも、市で管理を行う墓地などでは宗教色を出すことはできません。今後、先進地などを含めて将来に向けて検討していきたいと考えています。

Q 住民懇談会は、ざっくりならん場を設け、地域にあった話題性のあるものでも良いと思う。市が考えた発想を住民へ問いかけても良いのではないのか。

A 市民の思いを直接知るために、今回から市の課長職全員の出席としました。そうすることで市民の要望などに関する情報を共有でき、議論もスピーディにしやすくなります。私たちも勉強させてもらうので、これからも協力をお願いします。

Q 町内会が40もあるが、町内会館も町内ごとにある状況。将来的に集約する考えはないのか。

A 今後の町内会館のあり方について、すでに地域で協議をお願いしています。今年、赤平市では、公共施設等総合管理計画を策定して、将来的な公共施設のあり方を検討します。町内会館は減らしていく方針になると思いますが、まずはたたき台を策定して、それをもとに地域と協議をすすめていきたいと考えております。